

今後の都市政策 基本的な課題と方向

日本大学理工学部 土木工学科

岸井隆幸



- 1 「**持続可能性**」を軸に都市を再編成する
 - 「控え・循環」を政策の目的に据える
 - 「自動車への過度の依存」から脱却する
- 2 「**協働**」を軸に政策を展開する
 - 「自治体間の協働」を誘導する仕組みを確立する
 - 「公民の協働」を前提にした政策を展開する
- 3 「**日本ならではの**」の都市空間・都市政策を目指す

「持続可能性」を軸に都市を再編成する

「控え・循環」を都市政策の目的に据える

- 人口減少期にこそ「控え・循環」を構造化する政策を -

- ◎ ゆとりの発生を活用して「安全・安心の持続可能な都市構造」へ
防災や環境への対応、多目的な都市広場・都市環境帯
- 大都市圏 業務核都市について第2ステージの政策を
鉄道を中心にした複軸・複核の構造へ
地方部との連携
- 地方都市 公共公益資産の更新を都市計画に位置づける
駐車場の集約と建物更新を機会に「利用の整序」を
農林業との連携



何もない戦後ですら

全壊から15年

**戦災復興の土地区画整理事業で
空間を創出し---**



**50年後、街に
風格を生み出した**



今、引き継ぐべき空間を用意できなくてどうする

「持続可能性」を軸に都市を再編成する

「自動車への過度の依存」から脱却する

- 交通空間の使い分け（時空間シェア）を政策に -

- ◎ 公共交通に対する時空間優先配分・公共交通を活かす土地利用規制

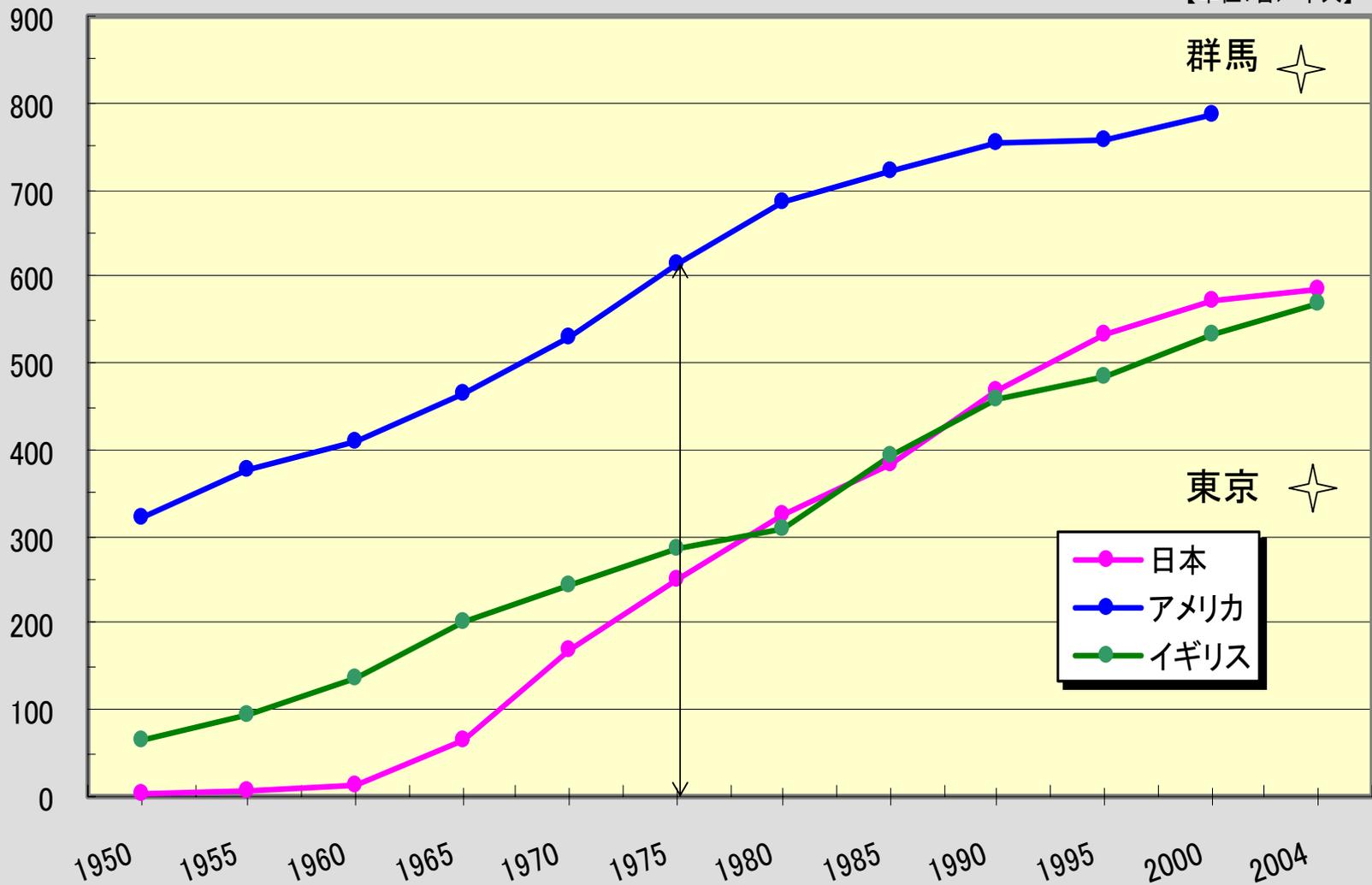
- 大都市圏 ITを活用した自動車管理（P&R スマートICなど）
 駐車場政策の転換（立地できる道路限定、物流・駐輪場へ）
 交通空間に関する立体的な公民協働

- 地方都市 駐車場政策の転換（集約化、立地できる道路限定）
 時間シェアによる広場・公園道路の実現

主要国(日本・アメリカ・イギリス)の人口当たりの自動車保有台数の推移

台数

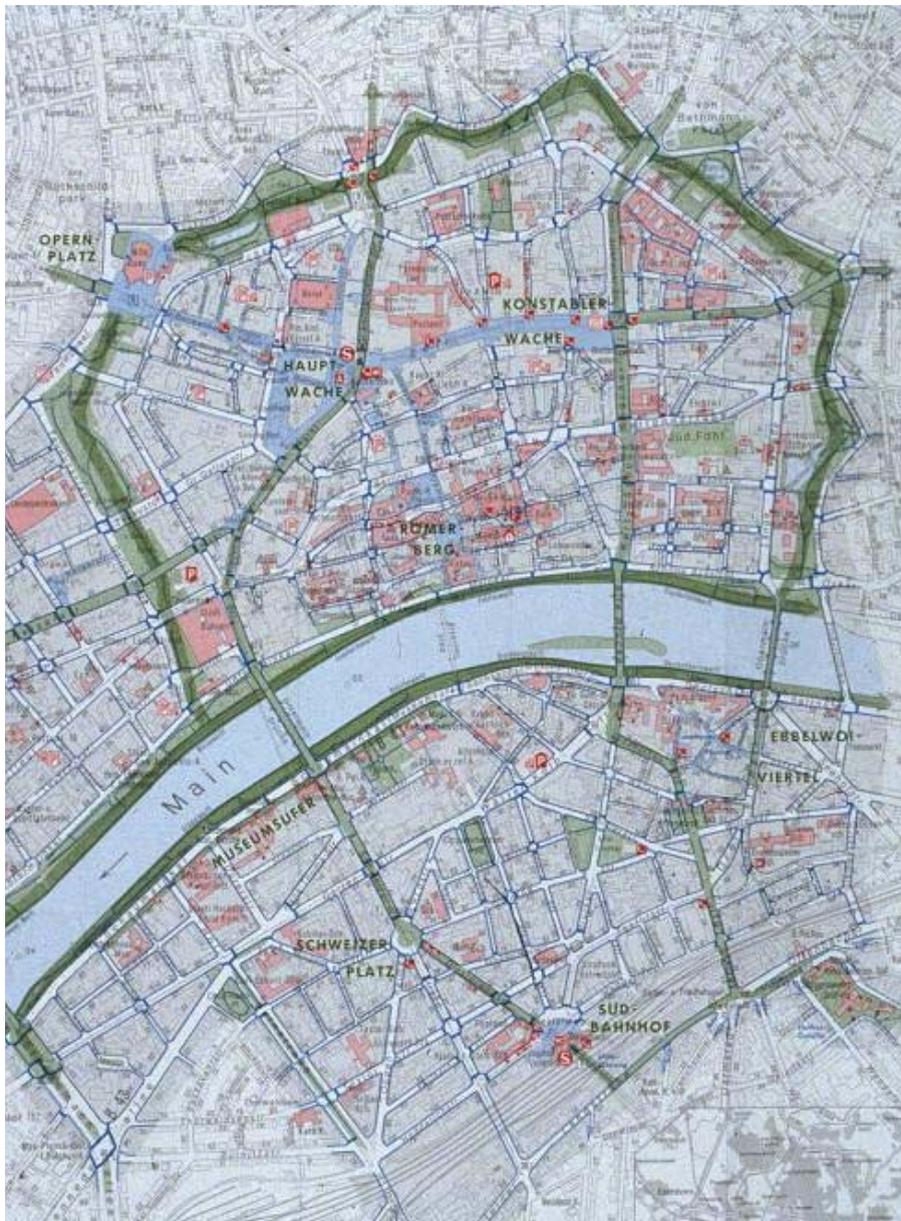
【単位: 台/千人】



道路経済統計要覧から作成、乗用車・貨物車・バスの合計値で計算したもの

自動車社会の行き着く先は 駐車場の海





どうやればこれが実現できるか

「協働」を軸に政策を展開する

「自治体間の協働」を誘導する仕組みの確立

- 広域的連携をせざるを得ない仕組みが必要 -

- 幻想のWIN-WIN・Negative Check から ブランケットトス で世界へ

競争相手は世界の都市
広域地域内で認知された「他にない取組み」を支援する

- 第三者機関の役割強化

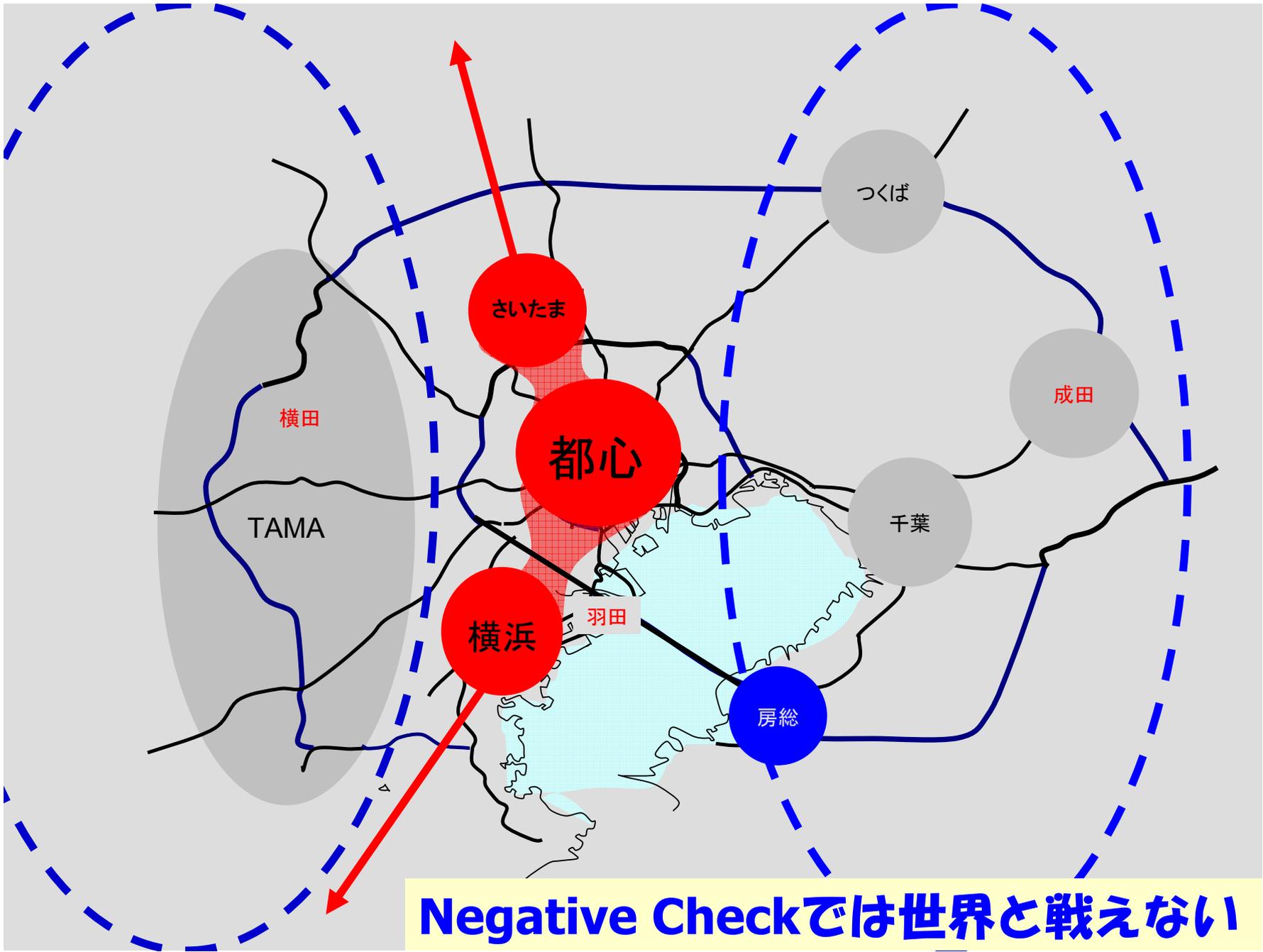
広域都市圏計画の位置づけと広域計画審議会の設置
都市計画審議会の活用（行政と市民の架け橋、報告・認定）

アジアの都市は競争相手であり、共存すべき相手である

世界の2/3はアジア

爆発するアジアの都市

	2003年	2030年（推計）
アジア	3823	4887 百万人
アフリカ	851	1398
欧州	726	685
南アメリカ	543	711
北アメリカ	326	408
オセアニア	32	41
合計	63億人	81億人



Negative Checkでは世界と戦えない

「協働」を軸に政策を展開する

「公民の協働」を前提とした政策を展開する

- 提案と参加を前提にした制度・政策の構築 -

- 都市政策に関する基礎情報および政策 PDCA サイクルの共有化

行政から都市計画審議会へ報告・都市計画審議会から市民へ報告

- 提案型・参加型政策の充実

政策の方向を示し、企業・市民の参加を求めるプロセス

- 「借り上げ型・複合型の公共・公益施設」の制度を充実

公民の空間に差異はない 人々の活動が活力の源泉

2003 5 9



「日本ならではの」の都市空間・都市政策を

- 厳しく・美しい自然、長寿の国の都市政策を -

- 歴史の知恵・風土文化を活かす政策

保全に関する政策ツールの充実
農林水産行政との協調

- 生きがいとしての「街づくり」

「まちの運営への参加」を通じて楽しい時を
商店街・市場を「街の寺子屋広場」に

「集いの場」は社会参加の場

